

開校以来の卒業生に追跡調査 「卒業後の生徒への励ましにもなれば」

尾上総合高校（青森・県立）

青森県立尾上総合高校は2012年に全日制を閉課し、三部制（定時制）の総合学科となった。昼間（I部・II部）通学か夜間（III部）通学か、3年での卒業か4年での卒業か選べるようになっており、定時制とはいつでも、I部・II部の両方に通い3年で卒業を目指す生徒が多い。キャリアデザイン（産業社会と人間）、総合スキル（文章表現力、プレゼンテーションスキルなど）、課題研究といった学びも準備し、社会を「生き抜く力」を育てている。

総合学科の生徒の10年後を知りたい

同校には課題を抱えた生徒も多く、やり直しを求めて入学する生徒や自己肯定感の低い生徒もいる。入学後、田んぼの中に巨大な絵を描くイベント、田んぼアートを手伝ったり、職業人インタビューなどをしながら地域とつながり、時間をかけてじっくりと「から自分の人生を積み上げていくのが、同校の総合学科らしいキャリア教育だ。」

しかし、14回生までの卒業生を送ってきたなかで、キャリア教育をどう評価すべきかという点ではずっと悩んできた。そこで今年度初めて、8回生までの卒業生全員にアンケートを送った。

「キャリア教育に取り組み中で、生徒に10年後、20年後、どうしたい？」と問い続けています。結果、卒業生はそこにたどり着いているのだろうか。それを検証せずに、今やっていることを正当化できないと思いました」とキャリア推進部の岩淵貴臣先生は言う。

キャリア教育の一定の成果を実感

約600通のアンケートを郵送し、戻ってきたのは30通強。数は少ないが、総合学科の科目選択について「自分で選んだ『責任』を自覚して勉強することができた。その結果として早く進路を意識できた」「将来のことを考えながら、それに応じた勉強ができたのがよかった」などの回答があった。また、現在の仕事や学びにつ

いて「満足している」と答えた卒業生が多く、さらに「満足していない」と答えた卒業生は、「まだ目標を達成していないから」「次にやりたいことがあるから」など前向きなこともわかった。

「データが少ないうえに、現在満足度の高い人が答えているでしょうから断言はできません。けれども、人生を主体的に歩んでいる卒業生がいることが伝わってきて、校内で共有することができました。こういった追跡調査はどんな高校でも必要なのではないのでしょうか」と岩淵先生は言う。今後少しでもアンケートの回収率を上げるために、「25歳になったら宿題を出す」などと宣言しておくなど、よい方法を模索しているそうだ。また、アンケートを返してくれた卒業生には結果をフィードバックする予定だ。

「アンケートのフィードバックを通して卒業生同士がつながってほしい。それによって励まされることもあるかもしれないと考えています。もちろん結果を在校生への指導に還元していくことも課題です」

キャリア推進部
岩淵貴臣先生



School Data

1999年創立／三部制・総合学科／生徒数201人（男子102人・女子99人）／進路状況（2015年3月実績、定時制・普通科の卒業生）大学2人、短大1人、専門学校5人、就職22人、その他2人

卒業生アンケート

ダウンロード可